

第8回「ふくい知財フォーラム」セミナー 実施報告書

1. 研究会・講演会等名称 第8回「ふくい知財フォーラム」セミナー — 地域知財を通じた知と技の融合・連携づくり —
2. 開催日時 平成30年3月7日（水） 13:30～17:00
3. 開催場所 福井大学総合研究棟 I 13階大会議室
4. 開催内容 地域知財を通じた知と技の融合・連携づくりの一環として、知的財産に関するフォーラムセミナーを実施した。本年度は、「ふくい知財フォーラム」の新たな取組みのご報告とご要望の集計、「他社特許利活用のポイント」「ビジネスに獲りに行く標準を活用」等の知財活用事例のご講演、県内活用可能公開特許最新リスト・シーズのご紹介、を実施し、産学官連携活動をさらに発展させるためのヒントを探った。 最初に、セーレン株式会社研究開発センター事業管理部 野形明弘部長代行、文部科学省科学技術・学術政策局産業連携・地域支援課大学技術移転推進室 村瀬剛太室長、近畿経済産業局地域経済部産業技術課知的財産室 堀口剛工業所有権活用専門官から、各々、ご挨拶を頂戴した。その中で、野形様からは、福井地域の企業の置かれている状況、そのなかでの産学官連携の在り方、などのお話があった。 講演第1部として、大企業の公開特許の活用した地域中小企業の活性化活動（川崎モデル）に関して「川崎モデルの知財マッチングと自社製品の事業化事例」と題して、川崎市産業振興財団知的財産コーディネータ 西谷亨様から活動事例、続いて対談形式で、一緒に活動してきた宝養生資材株式会社代表取締役 吉村政城様から自社での取組みの体験談をご紹介いただいた。「現場主義」「おせっかい」の活動が高いマッチング成功率に重要であること、知財活用することにより会社及び従業員が変わっていくことのメリットが良く理解できた。 また、講演第2部として、「中堅・中小企業等における標準化の戦略的活用のために」と題して一般社団法人日本規格協会標準化アドバイザー 渡邊道彦様から、標準化戦略の重要性とその考え方、新市場創造型標準化制度の概要及びそれを活用することで短期間での

標準化が可能であることの紹介、現在までの活用事例の紹介があった。事例の中では、具体的に福井県内企業の（株）ミヤゲンのプラスチックフィルム製キャリー袋の事例のご紹介があり、身近な制度であることを実感できた。

「ふくい知財フォーラム」の新たな取組みの報告では、活動をより現実の課題に対応した実効的なもの、『ふくい知財フォーラム』をネットワーク的により広がりを持った取り組みとしていくため、新たな活動の模索を開始したことを報告した。今年度は、(1)『「知財の使い方」を考えよう!』をテーマとして設定しベクトルを合わせたこと、(2)関係機関で役割分担しチームを組んで小活動・勉強会を企画、実施したこと、(3)認知度を上げるための発信方法を検討したこと、を報告した。続けて、参加型ワークで「ふくい知財フォーラム」活動に期待するところは何か?という視点で、リアルタイムで次年度活動への課題、要望を集計した。出席者全員で活動に対しての現状の課題や要望が共通認識された。

また、講義会場前のスペースでは、各関係機関（福井大学、福井工業大学、福井高専、工業技術センター、若狭湾エネ研、ふくい産業支援センター、発明協会など）の研究内容、支援内容等を展示したパネルが、合計21件、配置され、パネル前では、研究者やコーディネータの方々による説明や、その後の熱心な質疑応答等が為された。

今後は、県内各機関との連携を更に強めるとともに、今回の参加型ワークで集計した結果を活かして、ネットワークのより濃化のための知財交流会的活動の模索、広がりを狙った発信活動の模索、配布した県内各機関（大学、公設機関）の実施許諾可能な特許リスト（技術分類別）の内容補充等を図りつつその活用方法の検討、など産官学金のなお一層の連携強化に努める。

参加人数は計74名（企業23名 大学37名 支援機関14名）であった。

第8回ふくい知財フォーラムセミナー
— 地域知財を通じた知と技の融合・連携づくり —
平成30年3月7日（水） 13:30～17:00

